

## 国立大学法人 長岡技術科学大学

### 平成24年度第6回(第53回) 経営協議会議事要旨

日 時 平成25年3月15日(金) 13時30分～15時15分  
場 所 KKRホテル東京「白鳥」  
出席者 新原議長、東委員、池田委員、江口委員、岡田委員、神野委員、相岡委員、山崎委員、  
武藤委員、高田委員、宮崎委員、三上委員、中出委員、斎藤委員(議事の表決の委任  
による出席者:木谷委員、宮下委員、森委員)  
陪席者 平山監事、滝上監事、小松附属図書館長(高橋商工部長、原田客員教授)  
事務局 総務部長、企画・広報室長、人事・労務室長、総務課副課長、財務課長、財務課副課長、  
企画・評価係長、財務課予算係長、財務課予算係、総務課専門職員、総務課総務係主任  
以上 31名

議事に先立ち、第52回議事要旨(案)について説明があり、2ページの「新潟経済同友会」を「新潟経済同友会会員の有志」に一部修正のうえ、承認した。

#### 審議事項

##### 1. 中期計画の変更(案)について

武藤委員より、資料1に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

##### 2. 平成25年度年度計画(案)について

武藤委員より、資料2に基づき説明があり、併せてこの年度計画は文部科学省に3月末日までに提出する旨の発言があり、審議の結果、これを承認した。

##### 3. 平成25年度予算(案)について

宮崎委員より、資料3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

##### 4. 平成23年度目的積立金の使用計画(案)について

宮崎委員より、資料4に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

#### 報告事項

##### 1. 平成24年度国立大学改革強化推進事業の選定について

武藤委員より、資料5に基づき、報告があった。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 海外キャンパスの活用とは、現在の協定大学を含むのか。またどの地域を考えているのか。
- 基本的には交流協定を結んでいる大学を中心に、海外キャンパスを構成していくことになる。地域は長岡・豊橋ともに以前から強い交流・協力関係があるASEANを中心に考えており、加速度的な経済発展の勢いを日本人学生に体験させることで、教育改革を進めていきたい。

- 地域連携を含めた形では、地域の企業の研究者だけでなく、技術者を目指す方を受け入れる講座やセミナー等も行われているのか、今後この事業の中でやっていくのか。
- 本学と包括協定を結んだ三条市では、そのようなプログラムをスタートさせており、例えば日本に来ている東南アジアの若い人や企業家に専門の教育を受けさせたいとの協力依頼の話もある。また、大学だけのグローバル化ではなく、大学を取り囲む地域や、企業も一緒にグローバル化するような活動をすべきだと考えている。昨年からは国際技学カンファレンス in 長岡という国際会議も始めているが、企業の方々が仕切っていく形の国際会議にすることを考えており、いろんな意味で大学が持っている国際性を産業界や地元にも活用してもらいたい。
- 産学官融合技術科学教育推進センターの構想は、産業界の動きによっては成果が見えにくいのではないかと。最終的に目指す成果のイメージを明確にして進めていただきたい。
- 本学には30年以上前から、産学官共同研究を行ってきた技術開発センターがある。現在18件のプロジェクトを推進中であり、全国から様々な分野の企業が集まり、研究開発と同時に学生の指導も行っている。昨年からは地方自治体、産業界、企業と包括協定を結び始めており、このことについても賛同を得ている。共同研究の成功例を参考にしながら進めていくが、最初の年に何をやるかが非常に大事だと考えている。
- 先般設置した外部評価委員会の委員に対し、この構想を説明し、理解を得て支援をお願いしてはどうか。
- 本学では開学当初に実務訓練(長期のインターンシップ)を始めるにあたり、経団連より支援していただき軌道に乗せることができたと聞いている。この構想がうまくいき自立型の大学になるためには支援が必要と思っている。
- 現在、海外インターンシップに派遣する学生は14%位との説明だが、この協働教育ではどの程度、学生に海外経験をさせるのか。
- 理想としては修士を修了するまでに全員が少なくとも数ヶ月間、外国を経験すべきだと思っている。継続して取組める仕組みを検討していきたい。
- 学生を海外へ派遣することは非常に重要だが、その安全について工夫していることはあるか。
- 外務省の注意喚起がある国の場合は、実際に現地に行き調査し、提携校の先生方や企業担当者とも会って最終判断している。保険については、旅行保険にも加入し24時間カバーできる体制をとっている。また、現地の企業や提携校の協力を得て、現地での情報ネットワークをしっかりと開拓することが基本であり、タイの洪水のときには現地の提携校・企業の協力を得ることにより学生の安全を確保しており、さらに強化していきたい。
- 新潟の企業もグローバル化のため、いろんな研究をし、海外への進出も増えている。長岡技術科学大学は長岡市に立地しているのだから、ぜひ連携に協力をお願いしたい。
- 新潟地域には、非常に素晴らしい宝を持った企業がたくさんあり、地域で一緒にモデルを作り全国に広げることが重要であり相談していきたい。
- 将来的には自立の方向を考えていかなければならない。この事業の終了までには、金融機関や産業界とも連携しながら、資金確保を含めた構想を固めていったほうがよいのではないかと。

- 大学が企業や自治体と一緒に組んで、融合キャンパスをつくるという構想が含まれており、将来そこにたどり着くために、このプログラムの中をどういう形で走らせていくかが非常に大事だと思っている。

## 2. 平成25年度政府予算案の内示について

宮崎委員より、資料6に基づき、報告があった。

## 3. 平成25年度経営協議会開催日程について

学長より、資料7に基づき、報告があった。

## 4. その他

武藤委員より、3月1日に現新原学長の再任に係る学長選考会議を開き、審議の結果、新原学長の再任を可とした旨の報告があった。(再任の任期は本年9月16日から2年間)

以上